

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|--|
| 事業所番号 | 3390200107 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 愛育福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホームめばえ | | |
| 所在地 | 岡山県倉敷市連島町鶴新田1952-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和5年11月1日 | 評価結果市町村受理日 | |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|--|
| 基本情報リンク先 | |
|----------|--|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利法人 津高生活支援センター | | |
| 所在地 | 岡山市北区松尾209-1 | | |
| 訪問調査日 | 令和 6年 1月 12日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様、ご家族様の思いを大切に、その人らしい暮らしを続けていくために、基本的な介護サービスはもちろん、皆様が笑顔で穏やかに生活できるように様々な行事やレクリエーションを行っています。例えば、夏には屋台でたこ焼きやラムネを提供したり、敬老の日には握り寿司を、秋には吊るし柿と一緒に作って食べたり、お正月にはおせち料理と一緒に楽しんでいます。また春にはお花見、夏には夏祭り、秋は紅葉狩りドライブ、冬には鏡餅作り等を行い、四季を感じる行事も大切にしています。感染症対策のため、コロナ禍前よりも外出を控えている状況ですが、散歩やドライブ、花壇の草花、畑の作物の世話や田植え・稲刈り体験を行っています。近くに同法人の保育園があり、子供神輿を披露してくれたり、敬老の日には園児が作ってくれた掛け軸をプレゼントしてくれたりと開設当初から世代間交流に力を入れています。今後も感染症予防に努めながらご利用者様が安心・安全にその人らしく生活していただけるよう努めます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体の社会福祉法人が持つ保育園、地域密着型特別養護老人ホームなどと連携しながら地域に密着したグループホームとして地域貢献にも努めています。コロナ禍でも日々張りのある生活が送れるように人と接触しない場所への外出や、レクリエーションなどを行っている様子が窺えます。同法人の保育園の園児との関わりにより馴染みの関係が強く築かれています。食事では全員が楽しみを持てるように配慮しています。ボイストレーニング・生け花・お茶・音楽療法のボランティアが来ていましたがコロナ禍により今は中断していますが今後再開できるように検討しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 出勤時に目につきやすく業務の中で意識付けできるように玄関に理念を掲示しています。事業所理念にある地域・利用者・職員に愛される事業所を目指し取り組んでいます。業務の中で気づきを話し合い理念の理解に努めています。 | 理念にもあるように愛されるホームを目指しています。日頃から入居者に寄り添い丁寧な言葉遣いでアットホームな雰囲気作りを心がけています。管理者等は職員の様子をよく気にかけており、働きやすい職場となるように配慮している様子が窺えます。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 引き続き感染対策のため、積極的な交流は中止していますが、子供神輿やめばえ神社への初詣等めばえ保育園の園児や地域密着型特別養護老人ホームとの交流を年に数回行っています。また事業所外で地域の方にお会いした際は職員からあいさつをするように心がけています。 | 200メートル先にある保育園の園児が散歩の途中にホームに寄り入居者との交流が頻繁にありましたが、コロナ禍のため中止しています。昨年の秋には久しぶりに園児が子供神輿のお披露目に来てくれます。園児との交流の再開を検討しています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 感染症対策のため現在は開催を見合わせていますが、隣接する地域密着型特別養護老人ホームめばえと共同で地域の方々に向けた座学を定期的に開催していました。連島南小学校の2年生が町探検に訪れた際には支援方法を分かりやすく説明を行いました。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2か月に1度、運営推進会議を開催しています。資料提示にて活動報告を行い、ご家族様・他事業所・実習生も参加していただき、皆様からのご意見を参考にサービス向上に努めています。 | 法人の職員をはじめ、他事業所や入居者家族など多数の方が会議に参加しています。特別養護老人ホームや高齢者支援センターの実習生も参加し、学びの場の一つになっている様子が見受けられました。 | 会議の内容としてホームの現状を伝えることが主になっているので、参加者の多さも踏まえてより充実した会議となるような方法や議題の工夫に期待します。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 倉敷市介護保険課の担当者の方に連絡相談を行い助言をいただいています。 | 倉敷市介護保険課の職員も運営推進会議に参加しています。加算についてや成年後見制度、権利擁護に関することなど分からないことがあれば連絡するようにしています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束委員会を中心に、身体拘束を行わないケアを行っています。定期的に会議を開催し身体拘束の有無等確認を行い、内部研修や法人全体研修を通して職員の意識付け、知識向上に努めています。 | 入居前の情報に加え本人の生活に寄り添ったケアに努めています。家族の理解も得ながら転倒等のリスクへの安全方法を検討し拘束のないケアを心掛けています。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 虐待防止委員会を中心に会議を行い虐待防止の徹底を図っています。内部研修や法人全体研修を通して職員の意識付け、知識向上に努めています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 当法人が倉敷市連島南高齢者支援サブセンターの委託を受けており、成年後見制度や日常生活自立支援事業について相談できる環境があります。また権利擁護に関する内部研修も行っています。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 事前に重要事項等説明を行い、十分に納得していただいた上で契約を行っています。また入居後も疑問や要望などある場合は丁寧に対応させていただきます。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関にご意見箱を設置しているとともに、普段からご利用者様、ご家族様が意見や要望を言える関係づくりに努め、運営に反映できるようにしています。 | 家族とは面会や電話にて話をしたり、入居者からの情報の事実確認をしたりしていますが、家族の状況等で話が伝わりきっていないことがあるようです。入居者の方には日頃から思いを聞いたりして意見を反映できるように努めています。今後の面会緩和も検討しています。 | 運営推進会議での質疑応答や介護計画の説明と納得に努め家族に伝わるような工夫を期待します。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ユニット会議等で職員同士が意見を交わす機会を設けるとともに、年2回(夏・冬)に管理者が全職員の面談を行っています。 | 管理者は職員が働きやすいように家庭環境もふまえて希望をできるだけ反映できるように努めています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | キャリアパスを作成し、年2回(夏・冬)、自己評価の実施及び、リーダー職員による職員の評価を実施しています。面談を通して、職員一人一人がやりがいや向上心を持って働けるように努めています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 隣接する地域密着型特別養護老人ホームめばえと共同で年2回の全体研修を実施しています。外部講師を招いた研修も開催しています。感染対策や権利擁護等を学べるように毎月内部研修を実施しています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 運営推進会議の際等に他グループホームと情報交換・共有などお互いのサービスの質の向上に努めています。地域の福祉施設・医療機関との交流会にも積極的に参加しています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居前にご本人様の状態、意向等を聞き取り信頼関係を築く努力をしています。ご本人様の様子を見て、ご家族様にもご協力いただきながら、入居後も安心して生活できるような関係づくりに努めています。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | ご家族様の思いや要望等を伺い、信頼関係を築くように努力しています。入居後も電話や面会時にコミュニケーションをこまめに取りながら、安心して生活できるようにご家族様と職員が一緒に関わられる関係作りに努めています。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人様の話を傾聴し、その時に必要としている支援は何かをご本人様・ご家族様・職員・主治医等で一緒に考え、新たなサービス提供のきっかけになるよう努めています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | レクリエーションや日頃の家事を通してご利用者様から手順や当時の思い出話を教えてくださることが多くあります。生活の中で出来ることはご自分でしていただき、出来ない部分は職員の支援のもと行うことができています。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | ご利用者様がご家族様とのつながりを大切に思っただけのように、ご家族様と連携を取りながら一緒に支えていける関係作りに努めています。居室対応にて面会の場を設けています。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている | なじみの人との面会は継続して行えます。居室対応にて面会の場を設けています。贈り物が届いた際はご本人様に説明し居室に飾る等しています。これまで受診していた病院には入居後も継続して受診ができます。 | 保育園の園児との交流はコロナの為現在は中止していますが今後再開してくことを検討しています。馴染みの関係を途切れさせない為に電話を取り次いだり、手紙や贈り物が届いたり年賀状のやり取りを入居者と話しながら職員が対応しています。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | レクリエーションや行事を通じてご利用者様同士が良好な関係を築け、保てるように支援しています。ユニット内でゆっくり安心して過ごすことができるように環境を整えています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | サービス終了後も気軽に尋ねていただけるような関係・環境作りに努めています。契約終了後に、介護相談や入居相談を受けることがあります。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご利用者様にその都度希望や意向の確認をしています。ユニット会議等で職員同士で気付きや出来事を話し合い、利用者本位のサービスが提供できているか検討しています。 | 本人との会話を大切にしながら普段の様子からも汲み取れるよう思いの把握に努め、入居者のペースで生活できるよう心掛けています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | ご利用者様、ご家族様、ケアマネジャーをはじめ関係医療機関や介護事業所から情報提供をいただき、生活の経過等の把握に努めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 関わりの中から一人一人の生活リズムをつかみ、出来ること、出来ないことを見極め、ちょっとした変化にも気付けるように対応しています。またその出来事を介護記録に残し職員間で共有しています。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご利用者様、ご家族様の思いをもとに課題に対してカンファレンスを行い、現状のニーズに合った介護計画を作成しています。面会時、電話連絡時には現状を伝え、ご家族様から意見を聞いています。 | モニタリングは3カ月に1回行うようにしています。短期目標を半年、長期目標を1年で設定して介護計画を立てていますが、入居者の状況によってその都度計画を変更して対応しています。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 職員間では申し送りノートを活用したり、アイパッドでの記録の際には必要に応じ写真を残しています。統一したケアが行えるように介護計画を見直し、日々のケアを実践しています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | レクリエーションや行事は強制ではなく、ご利用者様の状況に応じ参加を促しています。ご利用者様との会話の中から今年は田植え体験を行いました。今後もご利用者様やご家族様の思いを汲み取り、反映していきます。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 感染症対策のため近隣住民や他部署との交流をできるだけ控えていますが、必要な情報交流を行いながら地域資源の把握に努めています。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 在宅で生活していた時のかかりつけ医を希望される方は、ご家族様と職員が連携し受診を継続しています。また訪問診療を利用されている方もいます。 | 入居する際に訪問診療を選択する入居者・家族が多い様子です。家族が受診に行く際には、手紙を渡して日頃の状況を文面で分かるようにすることで適切な医療を受けられるように連携を図っています。訪問看護も毎週あり、職員は入居者の気になることを表に記入するようにしています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護ステーションとの連携を密にして、急変時等24時間体制で相談でき、適切なアドバイスをもらうことができます。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 日頃より病院関係者との連携を図っており、入院時は円滑に、また早期に退院受け入れができるよう努めています。入院時には情報共有シートを活用し、入院以降はこちらから医療連携室に連絡を取りご本人様の状態把握に努めています。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時にホームの方針とご本人様、ご家族様の意向の聞き取りを行っています。必要時にはご本人様、ご家族様と話し合いながら、入居の継続が難しいと判断した場合には病院やその他事業所への住み替えの支援を行っています。 | 口から食事がとれなくなったり、日々の中で定期的な医療処置が必要になった入居者や家族には本人の状態に対応した他施設の提供や相談をするようにしています。また、要介護3以上になったり、入居者の状態に応じて特別養護老人ホームへの移動も選択の一つとして提案しています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 消防署署員による救急救命講習を行ったり、緊急時の手順を各ユニットに掲示し、冷静に対応できるようにしています。事故発生時は報告書の提出とともにユニット会議にて原因・対応方法、今後の対策について検討しています。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的に避難訓練を行い、避難経路や通報装置の使い方などを確認しています。また非常時の法人との連携方法・協力体制も話し合っています。 | 年に2回昼夜を想定して火災訓練を実施しています。法人の避難訓練もあり、近隣の保育園との避難時の予行練習も行っています。避難場所として倉敷リバーサイド病院や近隣の介護施設の協力体制もあります。地域の特長として液化化や水害の可能性もあります。 | 事業継続計画の完成と関連して災害時の移動として車と車以外の移動方法の検討に期待します。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | ご利用者様一人一人の生活歴や性格を把握し、個々に応じた言葉遣いや声の大きさに十分に気を付けています。また全体研修や内部研修の中で学ぶ機会を設けています。 | 日々の生活の中から本人が嫌なことを汲み取ってケアの方法を変えるようにしています。上手くいったことや嫌な事は申し送りノート等で共有することで共通認識を図っています。本人の思いに添って異性介助も行わないようにしています。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご利用者様同士や職員との会話の中から、ご本人様の思いや意向を汲み取っています。また関わりの中から感じ取ったご本人様の思いを職員同士で話し合い、自己実現できるように支援しています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | ご利用者様の性格や生活リズムを把握し、様子に気を配りながら、その人らしい生活を送れるよう支援しています。ご希望にできるだけ添えるように配慮しています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 好みの服を一緒に選んで、着てもらうようにしています。訪問散髪を利用し、好みの髪型にカットしてもらっています。白髪染めやパーマをかけることもできます。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | より幅広い食事のニーズに対応するため、多くの食事形態に対応しています。また施設の食事だけでなく店舗のお持ち帰りを利用したり、一緒におやつ作りを楽しむ機会を設けています。食後の片付けも手伝ってもらっています。 | 食の楽しみを感じてもらえるように持ち帰り(マクドナルド、中華料理等)の食事を提供しており、嚥下食の方でも食べれるような配慮をして食べる喜びも提供している様子が窺えます。本人の様子を観察しソフト食から常食になった入居者の方もいます。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事は個々に合った食事形態を提供しています。お茶が進まない方には好みの飲み物を提供しています。状況に応じて栄養補助食品の提供も検討しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後口腔ケアを行い、夕食後には義歯消毒をし清潔保持に努めています。必要であれば歯科医師との連携も行っています。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェックを行い、間隔やサインを逃さないように声かけにも配慮しながら誘導を行っています。個々に合ったパット類を活用し、より快適に生活できるよう努めています。また臭いや感染に配慮しながら汚物の処理を行っています。 | 自立支援に向けてカンファレンスや本人の状況に合わせて物品の選択やより良い対応の検討をしています。メーカーの方に来てもらい物品の使い方や相談をすることもあり、本人にあったものを選択できるように努めている様子が窺えます。捨てる時にパット類が見えないようにするなど配慮して汚物の処理を行うようにしています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食生活や水分量に気を配り、ヤクルトや適度な運動によって便秘予防に気を付けています。また個々に応じて下剤の服用を医師・看護師に相談しながら対応しています。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | ご利用者様の入りたい時間帯に入浴していただくように可能な限りの対応をしています。のぼせたり、気分不良がないように配慮は必要ですが、ゆっくりと湯船につかってもらうようにしています。身体状況によってゆっくりと湯船の中につかることが難しい方はシャワー浴＋足浴で対応しています。 | 週2回を目安に入浴ができるように対応しています。湯船にできるだけ入居者がゆっくりできるように話をしたり、ドアの外で見守ったりゆず湯や菖蒲湯等入浴を楽しむ工夫もしています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 入居前にご家族様や前施設の職員に1日の過ごし方を聞き、入居以降はご本人様の様子を見ながら屋間の臥床をすることもあります。就寝時間も一人一人の様子に合わせています。眠れない時には話を傾聴する等の対応を行い、安心して入眠できるように促しています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 内服薬、塗布薬についてお薬情報を使用し全職員が周知できるようしています。また、アイパッドでお薬情報の管理を行い、職員がいつでも閲覧できるようにしています。また誤薬がないように職員同士でダブルチェックし安全に服薬できるよう努めています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 洗濯物干しや洗濯たみ、調理、片付け等、ご利用者様一人一人が出来ることを活かし、多くの役割が持てるように心がけています。畑や花壇の世話を通してやりがいや楽しみを持っていただけるよう支援しています。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天気の良い日にはテラスや玄関先、畑に出る機会を持ち日光浴や外気に触れる機会を設けています。感染症対策のため買い物は現在も控えています。近所への散歩、ドライブ、公園散策等に出かけています。 | コロナ禍であっても、人と交わることがないように配慮して紅葉狩りや花見などの外出をしている様子が窺えます。外出することを家族に伝え希望されれば現地で一緒に過ごすこともできるようにしています。ホームで行うレクリエーションで日頃から楽しんで生活できるように努めています。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 訪問販売(パン、ヤクルト)を活用し、商品を選ぶ楽しみを持っていただいています。外出して買い物をするのが難しいため必要な物品や欲しいものがあれば職員が買い物を代行しています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご本人様が希望される時は電話で話をしています。うまく思いを伝えられない時は職員が代弁しています。携帯電話を使用しているご利用者様もいます。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | グループホームの外には花や野菜を植え、フロアには季節にあった飾りを作って飾っています。温度や採光等は職員が管理をし随時対応しています。懐かしい音楽をかけたり居心地よい空間になるよう工夫しています。 | 訪問時入居者が作成した福笑いが壁に飾ってあったりして季節や行事を感じられるような飾りつけがしてあり、職員は入居者のプライバシーに配慮した声掛けや、ゆったりした雰囲気作りをしている様子が窺えました。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | テレビが見やすい席を希望される方、気分が良かった方と一緒に席を希望される方、居室から移動しやすい席を希望される方等、それぞれの状態に合わせた配席で過ごしてもらっています。また、ソファを設置しソファでゆったりと過ごされる方もいます。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居心地よく過ごせるように家具は使い慣れた物を置き、自宅に近い雰囲気や落ち着いた感じでもらえるように工夫しています。夫婦の思い出の写真やお孫様の写真を飾ったり、一人一人思い出のつまった空間を大切にしています。 | 布団やテレビなど使い慣れた物が持ち込まれており、生け花や馴染みの方からの贈り物を飾っている入居者など本人が安全に過ごせるように考慮して居室の配置も行っています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | ご利用者様の身体状態や精神状況に合わせ、インテリアや家具の配置を行い安全に自立した生活が送れるように配慮しています。 | | |